

なくす会 東西南北

「物価高くて大変」と すぐ署名する人も

●青森市の会

青森市の会は7月23日、消費税減税とインボイス制度の廃止を求める東青各界連の街頭宣伝に参加。なくす会からの4人、民商、共産党、年金者組合の合計7人が新町さくら野デパート前で宣伝しました。さっと近づいてきて、「物価が高くなって本当に大変」と署名してくれる人もあるなど、署名に8人が協力してくれました。

生協前で宣伝、自転車停めて 応じるなど33人が署名

●岩手の会

岩手の会は7月15日、上米内の会や民商、新婦人などと、「いわて・署名行動」に取り組みました。朝から気温30度を超す強い日差しの下、佐々木茂喜常任世話人と藤村敬吾事務局長がマイクを握り、



「異常な物価高騰が続いているが、高市政権は国旗損壊処罰法案などの不要不急の悪法成立に狂奔し国民の苦しみは一顧だにしていない。いまこそ私たちが消費税5%への減税とインボイス廃止の声を大きく上げるときだ」と訴えました。買い物に訪れた女性は「私の母の兄は沖縄戦で戦死したという。戦争は絶対にやってはいけない」と言いつて署名しました。また自転車を通りかかった男性は、「消費税の署名か」とわざわざ自転車から降りてペンをとっていました。この日の参加者は7人。署名は33人から寄せられました。

また、盛岡民商滝沢支部の二つの班では7月13日、合同で消費税学習会を8人で開き、岩手の会の藤村敬吾事務局長が解説しました。2026年パンフ「消費税減税・廃止で未来に希望を」を配り、消費税をめぐる情勢について「高市政権は減税論議を国民会議に丸投げしたうえ、給付付き税額控除にすり替えている。それにも野党から異論が出てまとまっていない」と述べました。パンフの中の「消費税七つの大罪」について説明し、最後に「高市政権の軍拡路線を許すと、消費税はさらに増税される危険性がある」と強調し、なくす会への入会と会報の購読を訴えました。

雨の中、足止めた高校生も 一律減税の効果に納得

●福島県の会

福島県の会は7月24日、福島市内で消費税・インボイス廃止を求める街頭宣伝を4人で行いました。雨の中、足を止めた2人の高校生は、会員の「消費税一律減税が食

料品1%減税より大きな効果がある」との説明に納得した様子でしたが、「住所も書くんですね」と残念ながら署名とはなりません。県なくす会の服部雅事務局長は「食料品1%への減税、2年間限定では思うほど値段は下がらず、物価対策として不十分。2年後に8%に戻せば、7%の増税になる。大企業優遇税制の廃止、株式譲渡の最高税率の引き上げなど不公平な税制を正せば、5%減税への財源はある」と訴えました。また、郡山の会も24日、雨の降るなかで8人が宣伝行動。対話の中で「どの政党なの」との問いに、「市民運動です。私個人は共産党です」と答えた人も。「高市首相は怖いよね」と話す人など、19人から署名が寄せられました。

物価高、人手不足、倒産増 いますぐ5%恒久減税訴え

●三重の会

桑名消費税各界連は7月24日、桑名駅東口で、なくす会など4団体8人が宣伝。60代女性は「物価